

美しい森林づくり

貴重な財産を後世に

(能代市風の松原)

米代西部森林管理署

平成28年4月24日に能代市の風の松原で松くい虫被害抑止のため、第14回目となる「風の松原を守る市民ボランティア大会」が大勢の市民が参加するなか開催されました。

この風の松原は海岸砂防林に指定され、能代市街地に隣接していることからレクリエーションの森としても整備されているところである。

クロマツを主体とした海岸林は東西最大1km、南北総延長は14km、面積760haと日本五大松原のひとつに選ばれています。

理署で管理しており、今回のボランティア大会も国有林内の遊歩道やランニングコースの沿線を中心に実施されました。

風の松原は三百年前に飛砂から能代市の町を守るために育てられたクロマツ林で、現在も冬の厳しい西風を防ぐとともに、一年を通じて散策や、ジョギングなどレクリエーションの森としても多くの市民に親しまれています。

しかし、このクロマツ林も他所同様に松くい虫被害が拡大しており、毎年、松くい虫被害木の伐倒処理や薬剤散布を行うなど、被害拡大防止のため管理を続けています。

このような状況から、将来へ松を残すために「風の松原の再生と共に歩む会」の主催で、平成15年から各団体によりボランティア協議会を組織し、今年で14回目となる「風の松原を守る市民ボランティア大会」を開催しています。

参加者は4校の高校生300人をはじめ、企業、自治会、自然保護団体など市内外から69団体、さらに個人参加者など680人が参加しました。



松原航空写真 (国有林)

このうち342haを米代西部森林管



開会式

今年も桜が満開の時期の開催となり、開会式では局長をはじめ、山本地域振興局長、能代市長の挨拶のあと、一斉に作業を開始しました。

参加者は各グループに分かれて歩道、ランニングコース、木材チップを敷き詰めた散策路の沿線を中心に、松を枯らすマツノサイセンチュウを媒介するマツノマダラカミキリが産卵する可能性がある太さ15mm以上の腐っていない枝を、拾い集めました。



高校生の枝集め風景

27人の作業リーダーが各グルー

プをとりまとめ、至る所に風や雪の重みで落ちた枝を、参加者達は歩道をはじめ敷の中にも分け入って拾い集め、数メートルもある枝は手で折ったりしながら、運搬用の担架に乗せて各集積地点まで運びました。



担架による枝の運搬

作業開始から1時間半ほど集めた枝は、暖冬で雪が少なかったこともあって、昨年より7トンほど少ない14.8トンとなり、その山積みされた松の枝は会員の手配した数台のトラックに積み込み、市内のバイオマス発電所へ運び、チップ燃料として焼却処分となりました。

各地では、ボランティア大会に人が集まらず苦労しているところもあるなか、参加者が700人規模の大会は全国的にも珍しいとの話を聞きます。この地域の人々が風の松原を大切にしていることがよくわかるとともに、今後、このクロマツ林を後世に残すため各団体等と連携を取りながら、松くい虫被害抑止に努めていきます。